

水野教育長記者会見 概要

※文字起こしには AI を利用しております。漢字の誤変換があるかもしれませんが、あらかじめご了承ください。

教育委員会の取組みについて

【水野教育長より】

みなさん、お疲れさまです。

6 月の定例記者会見の報告といたしましては、大項目で言うと 5 点です。順次お伝えいたします。

1. 令和 10 年度開校の新工業系高等学校の仮称名（FIORA 高等学校）について

令和 10 年度開校の新工業系高等学校の仮称名についてです。

大阪府教育委員会では、府立生野工業高校、府立泉尾工業高校、府立東淀工業高校の 3 校を再編し、東淀工業高校地にて令和 10 年 4 月に新しい工業系高校を開校することとしております。

この新しい高校は、未来社会の当たり前を創るグローバルイノベーターを輩出する学校といたしまして、課題解決型学習を中心とした分野横断的な専門教育や、高い技術力を有する企業や大学等との継続的な連携を通じて、創造力・探究力・実践力を高める教育活動を展開いたします。

このたび、こうした教育理念をふまえ、新校の校名について「大阪府立 FIORA 高等学校（仮称）」とすることを教育委員会議で決定いたしましたので、お知らせいたします。

本校は、未来志向の視点と分野横断的な知識を身につけ、固定観念にとらわれないアイデアを実現へと近づけるため実際に行動する姿勢を持った人材を育成する学校であることから、校名にはその教育理念を込めて、未来志向の Future-oriented(フューチャーオリエンテッド)の F、分野横断・統合の Integrated(インテグレイテッド)の I、固定観念にとらわれないの Open-minded(オープンマインド)の O、実現可能の Realizable(リアライザブル)の R、実行志向の Action-oriented(アクションオリエンテッド)の A、それぞれを意味する英語表記の頭文字を取って、「FIORA（フィオーラ）」としました。

校名の選定にあたりましては、一般公募により 148 件の応募があり、その中から新校の目指す人物像や教育理念に合致する候補案を、大阪府教育庁担当者と新校のカリキュラム検討会議委員で組織する「校名検討委員会」にて協議を重ねて選定しました。

さらに候補案につきましては、府内の公立中学生を対象にヒアリングを実施し、その結果もふまえた校名（仮称）の案を本日の教育委員会議に諮り決定しました。

新工業系高校は、分野横断的な学びなど、これまでの工業系高校にはない新たな学びへの挑戦と、未来を作り上げていく学校としていきたいと考えております。そのため、仮称ではありますが、校名についても、育成したい人材や教育理念をアルファベット表記で表す、これまでにない新しいものとなりました。

なお、本校名の正式な決定は、令和 9 年 2 月の大阪府議会の議決後となります。

2. 不登校児童・生徒に対する学びの支援 LACO（大阪府学びのアクセスセンター）について

本年4月1日より、不登校の小・中・高等学校の児童生徒を対象とした新たな拠点として、大阪府教育センター内に、「LACO（ラッコ）」、大阪府学びのアクセスセンターを開設いたしました。

近年、不登校の児童生徒数は増加傾向にあり、その背景や状況も多様化しています。こうした中で、校種ごとに分かれた従来の支援にとどまらず、一人ひとりの状況に応じた、切れ目のない柔軟な支援が求められています。

そこで、LACOでは、小学校から高校までのキャリアステージを一体的に見通した支援を行っています。体験活動や社会とのつながりを意識したプログラム等を通じて、児童生徒が自分のペースで学びを継続できるよう支えています。

さらに、新たな取組みとして、「メタバース空間を活用した学びの環境」を導入いたします。対面での参加が難しい児童生徒に対しても、オンライン上で他者とつながりながら安心して活動できる場を提供することで、学びへの参加のハードルを下げ、社会的なつながりの回復にもつなげてまいります。

なお、メタバースの利用開始は7月下旬を予定しており、利用方法や登録に関する相談は随時受け付けています。本取組みは、市町村の取組みを補完する広域的な支援として大阪府が実施するものです。対面に不安のある児童生徒に新たな居場所と学びの機会を提供し、地域の枠組みを超えて、社会とのつながりへの入り口となることをめざしています。

また、LACOは児童生徒への直接的な支援に加え、学校への支援も重視しております。

各学校と連携し、個々の児童生徒の状況に応じた関わり方や支援方法を共有することで、学校現場における対応の充実にも寄与してまいります。

加えて、不登校生徒の選択肢の一つである、学びの多様化学校「窓明分校」への転学に関する窓口機能も担っております。

LACOでは、在籍校や市町村の教育支援機関とも連携をしております。これまでに、保護者、教育関係者等から100件を超えるご相談をいただいております。内容に応じて関係機関と連携しながら支援につなげています。メタバースの利用など、LACOへの登録の相談はお気軽にLACOまでお問い合わせください。

今後も、オンラインやメタバースといった手法を活用しながら、不登校の児童生徒一人ひとりの状況に応じた多様な学びを支えるとともに、すべての子どもたちが社会とのつながりを実感しながら成長できる学びの環境づくりを進めてまいります。

3. 教員不足対応や志願者の確保に向けた取組①「講師登録説明会」の開催について

大阪府教育庁では、大阪府内公立学校教員の欠員解消に向けて、教員免許保持者の掘り起こしや教員のキャリア形成のサポートと、年間を通じた講師の確保に努めているところです。

このたび、7月に府内各地域で講師希望者登録説明会を開催します。府内各地区で実施するほか、平日の夜間あるいは休日にも大阪市内で開催します。

この説明会では、講師制度の説明に加え、大阪府の公立学校の教育事情や講師経験者からのメッセージを紹介するとともに、個別の相談会も予定しています。大阪府内の公立学校講師としての勤務に興味をお持ちの方は、ご都合のよい日時・場所で、ぜひご参加ください。

講師登録につきましては、説明会当日に限らずオンライン等で随時受け付けております。詳細は府ホームページをご確認ください。

3. 教員不足対応や志願者の確保に向けた取組②「教育 Festival～未来の先生を応援するために～」の開催について

続きまして、「教育 Festival」についてです。教員志望者数が全国的に減少傾向となる中、将来の大阪の教員の志願者を育成していくために、教職に興味・関心のある高校生等を対象としたイベント「教育 Festival」を開催いたします。

実施にあたっては、府立の11校が参画する「教育の扉プロジェクト実行委員会」と共催で行います。「教育の扉プロジェクト実行委員会」は、教員を目指す高校生の育成を図ることを目的に、趣旨に賛同する府立高校11校が有志として参加し、令和8年4月に設立された団体です。

本イベントは、将来の職業として、教師を考えている高校生を対象に、現役の先生への質問や体験型ワークショップ等を通じて、仕事の魅力、やりがいや働きやすさなどを直接感じ、将来の姿を具体的にイメージするきっかけにいただくイベントとなっております。

当日は、現任教員によるトークイベント、未来の学校を考えるワークショップ、また教員免許の取得が可能な27の大学によるブース説明会を予定しております。開催は7月28日（火曜日）、午前9時30分から12時30分まで、会場は大阪府立夕陽丘高等学校の体育館です。

なお、本日から募集を開始します。応募方法は、府立高校の方は各学校へ、それ以外の方はチラシのQRコードから、7月10日までにお申し込みください。現任教員の普段ではなかなか聞けない「生の声」や、各大学の特色あるカリキュラム、キャンパスライフの情報などを知ることができます。ぜひ多くの高校生や保護者の皆様にご参加いただければと思います。

4. 府立高校の魅力発信に向けた取組 ①「大阪府公立高校進学フェア2027」の開催について

続きまして、「大阪府公立高校進学フェア2027」の開催についてです。本イベントは、大阪府内の公立高校等の魅力や進学に必要な情報を、中学生や保護者の皆様にお伝えし、進路について具体的に考えていただく機会として開催するものです。

開催日は令和8年7月26日（日曜日）、会場は昨年度同様、インテックス大阪6号館です。今年度につきましては、これまでより規模を拡充し、学校ごとの説明ブースの区画を大きくするとともに、別途イベントブースを設け、高校生活をより具体的にイメージできる企画を充実させるなど、進路選択を始める中学生にも参加しやすい内容となるよう工夫しています。

なお、入場無料となりますが、多くの来場が見込まれることから、来場者の安全確保と円滑な運営の観点により、参加には事前のオンライン予約をお願いしています。

詳細は、チラシに記載の二次元コードからアクセスできる特設サイトや府のホームページでお知らせします。中学生や保護者の皆様にとって、進路を考えるうえで大変貴重な重要な機会ですので、ぜひ多くの方にご参加いただきたいと思います。

4. 府立高校の魅力発信に向けた取組②「大阪府立高等学校・支援学校検索サイト『ERABO』」について

続きまして、大阪府立高等学校・支援学校検索サイト「ERABO」（エラボ）についてです。大阪府教育委員会では、中学生の進路選択を支援するため、令和 7 年 6 月に公立高等学校や支援学校を簡単に検索できるサイトをリニューアルし、「ERABO（エラボ）」として運営しています。

本サイトでは大阪府内の公立高校や支援学校など約 200 校について、学べる内容、学校の特色、部活動、所在地などさまざまな条件から学校を検索でき、各校の詳細情報やオープンスクール情報、入試情報も確認できます。

さらに、この 6 月にはお気に入り登録機能を追加し、登録した学校の更新情報をメールで受け取れるようになりました。今後も、「ERABO」と先ほどご案内した「大阪府公立高校進学フェア」の両方を活用しながら、受験生一人ひとりが自分に合った進路を選ぶよう取組みを進めてまいります。

5. イベント等の紹介①「OSAKA 多文化共生フォーラム 2026」について

続きまして、「OSAKA 多文化共生フォーラム 2026」です。外国にルーツのある子どもたちの状況につきましては、先日、文部科学省が公表した令和 7 年度調査によりますと、公立の小中高等学校に在籍する日本語指導が必要な児童生徒は、前回の令和 5 年度調査と比較すると、全国では約 1.2 倍となる 8 万 4759 人、大阪府では約 1.6 倍の 7920 人となっております。

このように日本語指導が必要な子どもたちが急増する中、大阪府においては、当該児童生徒が自身のアイデンティティを大切に育むとともに、社会参画を果たしていくうえで必要な力を育むことが重要であると考え、さまざまな施策を進めているところです。

その施策の一環として、本日は、7 月 18 日（土曜日）、大阪府教育センター大ホールにて開催いたします「OSAKA 多文化共生フォーラム 2026」についてご紹介いたします。

本フォーラムは、日本語指導が必要な中学生や外国にルーツのある中学生を対象に、2019 年度から実施をしています。同じ言語を母語とする他校の生徒や高校生との交流を通じて、アイデンティティを育み、進路に展望を持つことを目的としています。

当日は府立高校生による多文化クラブ発表やスピーチ、また、言語別のグループに分かれて中学生と高校生の交流を行います。高校生から、日本語をうまく話せずに苦労したことや、高校進学のために努力した経験などを聞くことは、中学生が将来の進路等を具体的に考える機会となっております。

また、ボランティアとして参加をしてくれた高校生に会場で感謝状を贈呈するなど、高校生にとっても自己肯定感を高める機会となっています。引き続き、大阪府教育庁では、多様な背景のある子どもたちが安心して学び、将来の可能性を広げられるよう取り組んでまいります。

5. イベント等の紹介②「めっちゃ WAKUWAKU スポーツ教室」について

次に、「めっちゃ WAKUWAKU スポーツ教室」についてです。令和 8 年 7 月 24 日（金曜日）、Asue アリーナ大阪にて令和 8 年度「めっちゃ WAKUWAKU スポーツ教室」を実施いたします。これは、オリンピックやパラリンピック等のトップアスリートによる実技指導等により、大阪の子どもたちのスポーツへの興味関心を高め、スポーツ・運動が「楽しい、好き」と感じることで、そして運動習慣の定着を図ることを目的に実施しております。

参加対象は、大阪府内の小学校・小学部に在籍する 1 年生から 6 年生です。

なお、実施種目及び講師につきましては、体操教室は北京オリンピック銀メダリストの沖口 誠（おきぐち まこと）氏、走り方教室は北京、ロンドン、リオオリンピック日本代表の金丸 祐三（かねまる ゆうぞう）氏、シッティングバレーボール教室では東京パラリンピック日本代表の嵯峨根 望（さがね のぞむ）氏、卓球教室ではアテネオリンピック日本代表の新井 周（あらい しゅう）氏、投げ方教室では元プロ野球選手の山本 和作（やまもと かずなお）氏となっております。

なお、卓球教室、投げ方教室につきましては選択制となり、1 人計 4 種目を体験できる形となっております。各種目の体験時間は約 30 分です。応募期間は令和 8 年 6 月 16 日（火曜日）14 時より開始しており、締め切りは 7 月 8 日（水曜日）17 時となっております。

「子ども元気アッププロジェクト事業」のホームページや、6 月末頃に府内全小学校に配布される「子ども元気アップ新聞」に掲載している QR コード、ポスターの QR コードから応募ができます。参加数は合計 200 人程度で応募多数の場合は抽選を行います。たくさんの応募をお待ちしております。

5. イベント等の紹介③「大阪府立近つ飛鳥博物館 夏季企画展」について

続きまして、府立近つ飛鳥博物館の夏季企画展の開催についてです。府立近つ飛鳥博物館では、7 月 18 日（土曜日）から 9 月 6 日（日曜日）まで、夏季企画展「年代の定点」を開催いたします。

皆様が歴史系の博物館に行かれた際に、土器や埴輪といった展示品を見ながら、「この資料はいつ作られたんだろう」という疑問を持たれる方も多いと思います。また、展示パネルには「5 世紀」などと書かれていて、「これはどうやって分かるんだろう」と、内心腑に落ちない方がいらっしゃるかもしれません。

今回の展示では、こうした素朴な疑問に答えることを出発点としつつ、考古資料に対する年代決定のしくみを紹介します。年代決定の「定点」となっている資料をもとに、日本列島における、弥生時代の終わりから奈良時代までの約 500 年間のタイムスケールを、様々な考古遺物から描き出します。

近つ飛鳥博物館では、館長以下、初心者の方にも分かりやすい展示作りを心がけておりますので、ぜひご来館ください。

私からの報告は以上です。なお、記者の皆様のお手元のペーパーの裏面ですね、6 番に関しましては、知事・教育庁の学校訪問、表敬について書いております。この 5 月と 6 月、以下の府立高校、府立学校の方に私自身は訪問をして、また X の方にもその様子をアップしております。はい。私からは以上です。

質疑応答

● FIORA 高校の仮称について、教育長としてどのような意見を持っているか

(読売新聞)

1 つ目の FIORA 高校についてですが、先ほどの教育委員会議で、皆さんいろんな意見をおっしゃっていましたが、教育長としてはどのようなご意見をお持ちなのか教えていただけないでしょうか。

(水野教育長)

先ほどの教育委員会議でも、1 名の委員が反対、他の委員が賛成。ただし賛成の委員の中でも、もう少しこういうところは気をつけた方がいいんじゃないかというご意見があったところです。

当然、私のところでもこの校名決定に関しては結構時間をかけて会議も開いておりました。私としましては、やはり未来の当たり前を作る学校、それをしかも他のところと連携しながら当たり前を作っていく学校となると、そのミッション自体がかなり先進的な発想だと思います。

そうすると、やはり校名に関しても、むしろ皆さん全員が「なるほどね」と思うものよりかは、「何これ？」とまず引っかかるような校名であってもいいんじゃないかというふうな意見を持っておりました。

その中で出てきた意見は、正直に言いますと、どれも「ん？」と引っかかるようなものばかりでした。その引っかかりをどうポジティブなストーリーとして皆さんに説明できるか。なぜこういうふうに決めたんだっていうのが説明できるか。そして何より今、中学生たちがその名前についてどう思うか、ある意味、子どもの意見表明というところも大事にして、400 名近くの中学生の話も聞いて、今回この FIORA という名称が出てきたこと自体は私としては前向きに受け取っております。

● 学校名の現代における重要性について

(読売新聞)

今まで、先ほどの委員の 1 人からも、学校の名前といえば場所だったり、その教育内容だったり、分かりやすいものを何十年も前の人たちがつけてきたとは思うのですけれども、やはり校名って印象としてとても大事だと思うのですけれども、学校名の現代における重要性というか、意味合いを教育長としてはどのようにお考えでしょうか。

(水野教育長)

1 番は、その学校に入学して卒業する段階で、この学校で良かったという時に、その名前がしっかりと彼らの口から出れば、それは地名が入っている感じが入ってまいが、私はどちらでもいいかなと思っています。

● FIORA 高等学校に何を期待するか

(毎日放送)

FIORA 高等学校に関してなのですが、改めてどういったことを期待するか教えてください。

(水野教育長)

やはり、工科系高校、工業系高校というのは歴史があるもので、そちらでどんなイメージを保護者の皆さん、府民の皆さんもちろん生徒も持っているのかなというのは結構この2年間議論をしてきたところです。そのイメージというのが、どちらかというあまりポジティブに受け取られていないのではないかという仮説を我々は持っていました。記者はいかがですか。工業高校にどんなイメージをお持ちですか。

(毎日放送)

そうですね、すぐに社会に出て、学んだことを生かせる高校だなという認識ですね。

(水野教育長)

おっしゃる通り、やはり実業ですので、高校3年間で学んだ技術というものを、次、社会でいわゆる高卒ですぐ働けるような人材を育成する。これはもちろん否定されるものでもありませんし、大阪府立の工科系・工業系高校、他にもありますし、そこを卒業した子たちが羽ばたいているのもこれはもう誇らしいことです。ただそれだけではなくて、やはりこれからの世の中を見た時に、例えばですが、就業構造というのが2040年には理系人材が足りなくなってくる、場合によっては文系人材が溢れてしまうかもしれないという経済産業省の見立てがある中で、大学自体も多少理系というところをより広げていき、時には文系のダウンサイジングの議論も始まっているところで、そのような中で高校においても当然、理系人材を求められる流れというのは今現在でもございます。その理系人材の中で、私は大切にすべきところはいわゆる工科系・工業系高校において、これまでの学びとはまた違った、AIであるとか、ロボティクスであるとか、ヒューマノイドを作っていくような技術であったり、そのような技術を大学で学ぶ手前で、高校で学べるところを作っていくという思いを込めて議論をしてきました。

●新しい科目群は府立高校で初めてか

(毎日放送)

先ほど教育長のお話にもありましたが、IT専攻であったりとか、ロボティクス専攻のような新しい科目専攻があると思うのですが、これは府立高校では初めてのものになるのでしょうか。

(水野教育長)

そうですね、こういう名称で、いわゆるIT専攻であったり、メカニクス専攻であったり、エレクトロニクス専攻であったりという名称については、今回初めてです。他にも生活マテリアル専攻、デザインクリエイティブ専攻と今仮で置いておるところなんですけれども、いわゆる以前であったら機械科、そして電気科とかですかね、そういう名称のところがあったと思うんですが、そこをさらに超えてですね、こういう新たな、2040年に向けて必要ないわゆるこういう人材を育てていこうと思った時に、今現在置いているところが以下のこの専攻名となっております。ただこの専攻名もまだ正式決定ではございません。

●エンジニア交流 Lab. (仮称) の認識について

(毎日放送)

あと「エンジニア交流 Lab.」がすごく面白いなというふうに思ったのですが、こちら、生徒が企業や大学と交流できる場所で、共同研究などを週 1 回程度行えるとお伺いしたのですが、その認識でよろしいでしょうか。

（水野教育長）

はい。この「エンジニア交流 Lab.」は、1 つの売りになってくると思います。

何より大切なのは、つまりこの FIORA 高等学校に入ってくる子たちは、おそらく人物像としては中学校時代にもものづくりであったり、ロボティクス分野に興味・関心がある子たちが当然来てくれるだろうと。

その子たちに学校のいわゆるカリキュラムの中で先生が専門的な知見を机上の授業であったり、はたまた校内のそういう研修であったりで行うのはもちろんですが、この分野はもう日々進歩しているじゃないですか。それこそ AI ひとつとっても、少なくとも 5 年前にここまで ChatGPT が一般社会に広まるなんていうのは、なかなか分かっていなかった。ということは、この民意の流れの速さというものを、やはり今回の高校においても常にアンテナを高く持っておき、こういう Lab.を通じて民間の皆さんに最新技術を見せていただいたり、時にはワークショップをしていただいたりというところはすごく大切な取り組みになってくると思っています。

●3 校の再編理由と募集停止について

（毎日放送）

それと、もう 1 点、泉尾工業高校と東淀工業高校と生野工業高校のこの 3 校ですけれど、改めてどうしてこの 3 校を集約することになったのかという理由と、それぞれの募集停止時期がもし分かっていたら、教えていただきたいです。

（水野教育長）

それぞれの募集停止時期につきましては、また担当課の方にお問い合わせください。

●教員不足の現状について

（日経新聞）

教員不足対応や志願者の確保に向けた取り組みについてお伺いいたします。

今回も新たに 2 つこのような施策を出されている中だと思うのですが、改めて大阪府における足元の教員の不足感と言いますか、どの程度欠員が生じている状況なのか教えていただきたく存じます。

（水野教育長）

府内の学校の欠員状況につきましては、5 月 1 日時点のお話にはなるのですが、小学校で 50 名、中学校で 36 名、府立高校で 9 名、支援学校で 9 名の常勤の講師枠が欠員となっております。

●教員不足対策の効果について

（日経新聞）

今までも対策として、例えば経験者を優遇した採用試験の実施など様々行ってきたらと思うのですけれども、改めて一定効果は出てきているのか、それともまだまだ対応が必要なのか、今の現状の位置としてはどのようなところにいるのでしょうか。

（水野教育長）

はい、大前提としては、どの業界も人手不足というのは今苦しいと思っています。その中で独り勝ちをしているところはもちろんあるかもしれませんが、全体的には以前よりかは採用というのは苦しい状況です。その中でこの教員においてもやはり同じように苦しい状態にはあります。

教員不足のところに関しましては、例えば以前であったとしたら、先生を採用します。で、欠員がない状態でスタートします。しかし先生が年度途中で様々な要因によって、例えばお休みをしてしまう。産育休も含めてお休みをしてしまった時には、これまではいわゆる講師という人たちに行っていただいて、そこで穴を埋めていく。ただ、今どうなっているかと言うと、若い先生が多いですので、そもそも産育休を取ってお休みされる方が多い。しかしその当てる講師ですね、教員採用試験をたくさん受けていただいて、たくさん合格していただいている分、講師の先生の登録が不足しているところが事実ありますので、そのところが実際苦しい状況にはなっております。とはいえ、大阪府におきましてもこの採用のところ工夫はおっしゃっていただいたようにずっとしているところですので、他の自治体と比べて著しく大阪府が不足しているというわけでもなく、一定このような取り組みの効果はあるのじゃないかなと認識しています。

●国の改革先導拠点に採択された場合の期待について

（日経新聞）

別で質問もう1点ございまして、新工業高校の話にも絡むところだと思うのですけれども、今、国の方に改革先導拠点として申請しているところだと思うのです。改めて、教育長として、今、認可を待っているところだとは思いますが、申請が通った時にはどういった成果を期待しておりますでしょうか。

（水野教育長）

国の方で3000億以上の基金ができて、大阪府の方でも国の方に申請を4校上げております。これが実際全て採択されるかというのが、聞いているところによると6月末ぐらいに出るのではないかと考えております。

我々が上げているのは、今まさに話題にもなっております、このFIORA高等学校～新工業系高校と、2つ目が農芸高校、3つ目が天王寺高校、4つ目が大阪わかば高校です。

それぞれ累計が3つあるのですけれども、ちょっとまた詳細は調べていただくとして、この3つを国に申請しているところです。これはそれぞれ思惑が違いますが、例えば天王寺高校であつたら理系人材をもっと輩出できるように、もっと専門的な機器であつたり、そういうラボを作っていくというところの意図を持って申請しています。

大阪わかば高校は多様な生徒がおりますので、海外ルーツの子たち、または日本の子たちが共に例えば英語で授業を受けていって、これから大阪が副首都として発展していくために、やはり高度外国人材という

のは重要なポジションになってきますので、そういう生徒を輩出できるためにはこういう施設がいるのじゃないかというように、それぞれの類型ごとにポイントを絞って国に申請をしているところです。

これがもし、国の方でまだ通っていないのに通ったらというのも大変言いにくいところではありますけれども、やはり高校教育で子供たちがそれを学んだことによって大阪を支えていく、時には発展させていくような人材を輩出していきたいなという思いはあります。

●横展開をどう進めるか

（日経新聞）

先日の議会の答弁の時にも、他校への横展開というのが必要になってくるというお話だと思います。例えばカリキュラムの共有であったり、施設の開放であったりというのが挙げられていたと思うのですが、ただ学校ごとにやはり教員の数だったり、環境が違つ中で、こういった形で横展開を広げていきたいか、その辺のお考えはどうでしょう。

（水野教育長）

まずはその知見ですね。実際そういう設備を4校整えた上で、カリキュラムに落とし込んでいって、民間連携もかなり今回テーマとして上げていますので、その知見というのをやっぱり府立高校全体に波及させていきたいというのが1つと、あとは今回上げた4校というのが交通の便が良いですので、実際に近隣の府立高校の子たちがその施設を使っていくということも想定しております。

●東海大付属大阪仰星高校のいじめ重大事態について

（朝日新聞）

2点ありまして、東海大付属大阪仰星高校のいじめ重大事態の件が1つあるのですが、大阪府教育長として、どのように事態把握されているのかということと、今後何か調査なり指導されるご予定があるのかどうかお伺いしたいと思います。

（水野教育長）

東海大付属大阪仰星高校のいじめ重大事態の報告に関しては受けております。

（朝日新聞）

いつ、何月くらいですか。日時が分かれば教えていただけますか。

（水野教育長）

報告を受けた日時ですか。私の方に報告があったのは、私学課に報告があったのは2月13日ですね。

（朝日新聞）

内容はもう報道の通りということで。

（水野教育長）

そうですね。内容は報道の通りです。

（朝日新聞）

今後の教育長としての動きと言いますか、措置というものは何かご予定されていることありますでしょうか。

（水野教育長）

まず、いじめ重大事態に関しましては、やはり設置者がしっかり調査をしていくということが何よりになりますので、こちらの学校に関しましては設置者が我々ではございませんので、しっかりと調査をして、再発防止に努めていただきたいと思います。

●学校火災への対応について

（朝日新聞）

もう1点なんですけれども、19日、先週東京都の小学校で火災がありました。

本日ですね、文科大臣が学校の防火体制などについて点検するように指示をする考えだということを言っていたと思うのですが、ちょっと現時点でお答えしづらいのかもしれませんが、どのように対応されていくのかというところを教えてください。

（水野教育長）

現時点ではまだ私も報道ベースのところではしか掴んでおりませんので、具体のところはお答えしかねるのですが、少なくとも報道を見ていて、学校で実際にああいうようなことが起こってしまわないように、常日頃の点検もそうですし、起こったらどうするかというところはやはり改めて今回の件を受けて、当該校だけの話じゃなくて、日本全体がおそらく設置者の方で議論が進んでいくと思っております。

その中で、結果として火事において子供の命が失われなかったというところは、私としては大変その学校の校長先生なり、その時の対応、これもまだ詳しくはちょっと私も分かりませんが、それは良かったのじゃないかなと思います。

大阪においても、それぞれの学校において、もし起こったらどうしていくかという点と、そもそも事前にできることは何かというのは、改めて国の通知をふまえた上で対応していくつもりです。

●インターハイの始球式について

（教育長発言・補足）

先日、記者会見で皆様の前で宣言したと思うのですよ。ソフトボールの始球式をさせていただくことになっておりまして、確か記者の皆様目の前で「ウインドミルでストライク球速90kmを投げます」と言ったのですが、あれから専門家のご助言を聞くと、素人で球速90kmってなかなか出ないそうですね。ぜひ調べてみてください。私素人なのでですけども、そんな私が宣言通り4月からちょこちょこ練習をスタートしまして、最初は球速50kmぐらいだったんですけども、今最速で75kmまで出るようになっております。

当日 90km はちょっと何とも言えませんが、専門家の助言を聞きながら、球速 80 k mを目標値にするのか今検討中だということだけ、今回の記者会見でもお伝えしときたいなと思っています。

また、それぞれの高校生もまさにこのインターハイに向けて、暑くなってきたら練習も大変で、熱中症の恐れもある中ですが、本当に子どもたちの青春が輝く一瞬一瞬がきつとございますので、また記者の皆様も大阪でアーチェリー、卓球、バスケットボール、ソフトボールと 4 競技ございますので、また取材の方もよろしければお願いいたします。

LACO の件、またメタバースのところも 7 月から募集開始というところですので、ぜひこちらも新たな取り組みですのでご興味・関心持っていただければありがたいなというふうにも思っております。

(これは記者会見の概要であり、発言内容をそのまま記録したものではありません。)